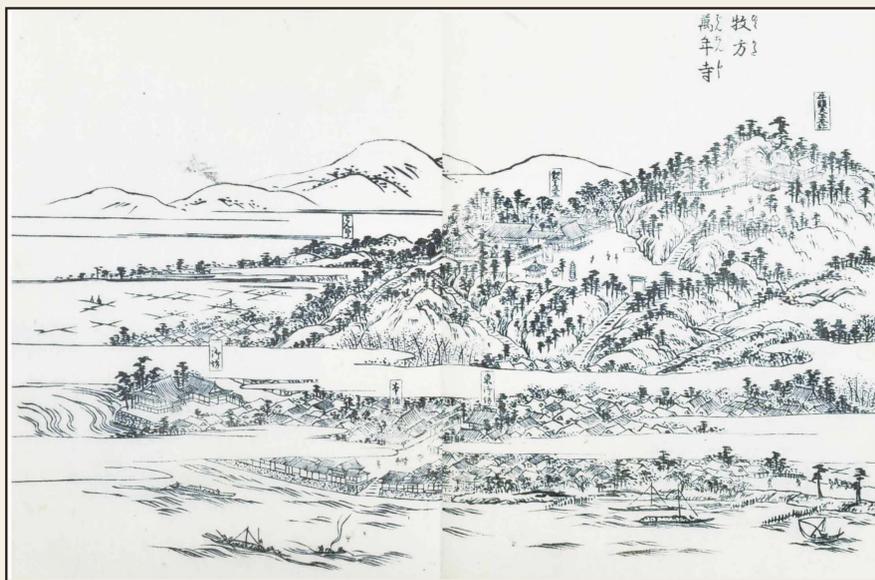


じょうど しんしゅう ひらかた じない まち

# 浄土真宗と枚方寺内町

Jodo Shinshu Sect and Hirakata Jinaimachi  
[Temple Town]



## 河内名所図会 枚方万年寺

Hirakata Mannenji Temple, Picture of Noted Places in Kawachi

丘陵上の万年寺と川岸の枚方宿が描かれているが、本陣、東御坊、西御坊の位置関係が実際とは異なる。

枚方は浄土真宗とゆかりの深いところでした。枚方と浄土真宗の出会いは、戦国時代の順興寺建立に遡ります。永禄2年(1559)に、蓮如第27子の実従がここに入寺し、一家衆(本願寺宗主の一族)寺院として栄えます。実従は『私心記』という日記を残しており、枚方に住む人々の様子をいきいきと描いています。これによると、順興寺を中心に蔵谷・上町・下町などの町場が形成され、油屋、塩屋、味噌屋等の屋号を持った商人等、多くの人々が住んでいたことがわかります。このような真宗寺院を中心とした集落を寺内町といいます。

枚方寺内町は現在の枚方上之町を中心に台地上にありました。しかし本願寺勢力の低下とともに、順興寺は廃され寺内町は衰退します。江戸時代になると、淀川沿いに枚方宿が形成され、台地上にあった都市機能も宿へと移ってきたと考えられます。

その後、本願寺は東西に分裂し、天和2年(1682)に東本願寺は、枚方に再興した寺院に願生坊の名を与え、また、西本願寺も浄念寺を本寺兼帯所(本山直轄の寺院)として特別な扱いをしました。地域の人々は願生坊を東御坊、浄念寺を西御坊とも呼んでいたようです。



English guide

한국어 안내  
中文 指南



1000X1000